

## 東京 IPO 特別コラム

2018年9月25日 Vol.130

### 年初来高値抜け迫る日経平均と中小型株指数

日経平均は上値の壁となってきた2万3000円を9月14日に突破。その後は一気に上昇し、1月の年初来高値2万4129円まであと150円余りにまで接近してきました。上げピッチがやや速いので多少利益確定売りも出やすく、一気に高値抜けには至っていませんが、NYダウが年初来高値を抜けたように早晚この高値を抜けるものと期待されます。抜けてくるとますます強気に投資家心理は傾くものと見られます。一方で、まだ比較的穏健な推移を辿っているのが、マザーズ指数やJASDAQ指数などの中小型株指数です。これらは年初来高値に対して、それぞれ77%、87%の水準に留まっており、出遅れ感が台頭しつつあります。主力銘柄中心の相場展開から流動性に乏しい中小型株への広がりがまだ本格的には見られない中で、注目されるタイミングも近いと考えられます。当面、マザーズ指数は1110ポイント、JASDAQ指数は175.5ポイント程度を目指すものと期待されます。

こうした中で2018年のIPOの数は10月30日のVALUENEX(4422・マザーズ)まで69銘柄が予定されており、残り11月から12月末のIPOまで昨年並みに登場するなら90銘柄は超えてくと予想されます。物色気運が主力銘柄に移る中でこのところのIPO人気は沈静化しておりますが、中小型株人気の復活とともに再びIPO人気に戻るとの見方ができます。

9月のIPO市場では前号で触れたテノ、ホールディングスの上場が取り止めになったほか、公開価格割れでスタートしたナルミヤ・インターナショナル(9275・東証2部・公開価格1560円・時価1373円)がその後も下落歩調を辿るなど全面高の展開には至らず、初値形成後の値動きがやや重い状況が見られます。また、不動産関連の香陵住販(3495・JQ・公開価格1700円・時価1639円)は初値こそ公開価格を上回ってスタートしましたが、現在は公開価格を割り込み、不人気状態。ハイテク系、ネット系銘柄とそうでない銘柄とで二極化の展開が顕著になっていますが、業績面を含めた投資家へのIR不足もその一因と考えられます。

そうした中で26日はSB系のプロードバンドセキュリティ(4398・JQ・公開株数70万株)がIPOして参ります。セキュリティ関連銘柄もかなりこれまで上場して参りましたので、どれだけ人気を集めるかは分かりませんが、テーマとしては関心を集めるものと考えられます。業績が伸び盛りでもあり公開価格が750円と比較的低位にあり、人気化する可能性はありそうです。市場環境が良くなってきた中で、IPO秋の陣が本格化。過去2、3年タームのIPO銘柄も含め、比較的業績の良い成長意欲の強い銘柄を中心に復活の動きを大いに期待したいと思います。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)